

ロシア

● 起源と変遷

1990年代、ロシアで行われた政治・経済・社会分野の抜本的な構造改革に伴い、価格の自由化と民営化が進められた。この急激な変化によって、疾病構造や保健サービスの利用だけではなく、収入、食料供給、出生率にも変化がもたらされ、健康・栄養・家族計画等における課題が生じ、所得格差も拡大した。このような背景の下、**ロシア長期モニタリング調査 (Russia Longitudinal Monitoring Survey: RLMS)** は、多目的調査である中国健康栄養調査 (China Health and Nutrition Survey) を手本にして、1992年にG7の国々によって創設された。この調査の目的は、ロシアにおける市場経済改革が家庭や個人の経済的厚生および健康に与える影響を評価することであった。そのために、個人単位での健康状態や食事摂取、世帯単位での消費や保健サービス利用状況の詳細なモニタリングに加えて、地域単位での関連するデータの収集が1992年以降、継続的に実施されている。

ロシア長期モニタリング調査は、その名前の意味する通り縦断研究であるが、調査時期によって1992-93年の**第一期 (Phase I)** と1994年以降の**第二期 (Phase II)** に分けられる。第一期にはRound 1-4 (第1-4回)、第二期ではRound 5 (第5回) 以降の調査が含まれる。第一期は、主に調査におけるモニタリングシステムの整備を目標として6,000世帯を対象に実施された。第二期では、より質の高い情報収集ができるように標本の大きさは4,000世帯に縮小されたものの、抽出する地域の範囲は2倍に拡大されて調査の精度はより高くなっている。2010年に高等経済学院 (Higher School of Economics: HSE) が出資を開始した時に、調査名を**RLMS-HSE** にする決定がなされた。また、この年に新しい独立した調査対象が加わり、調査規模が6,000世帯に拡大されている。

RLMS-HSEの特徴は、国民の代表性がある大規模な標本調査であり、かつ信頼性の高い詳細なデータを備えた多目的調査である点にある。データセットは、ロシアだけでなく世界中の研究者がアクセス可能であり、クロスセクションデータとしてだけでなく、時系列データあるいはパネルデータとしても活用できる。

● 栄養調査の変遷

栄養調査が実施された調査回は第 1 回～14 回、第 20 回。

年	対象	栄養調査名
第一期		
1992	0 歳以上	第 1 回 ロシア長期モニタリング調査（RLMS-HSE）
1992-93		第 2 回 //
1993		第 3 回 //
1993-94		第 4 回 //
第二期		
1994	0 歳以上	第 5 回 ロシア長期モニタリング調査（RLMS-HSE）
1995		第 6 回 //
1996		第 7 回 //
1998		第 8 回 //
2000- 毎年		第 9 回 //

ここでは、1994 年以降実施されている第二期（第 5 回以降の RLMS-HSE）の内容について示す。

● 調査対象

- 第二期の初回である第 5 回調査の時点で、4,000 世帯を目標に層化多段階無作為抽出された住居およびそこに属する世帯の世帯員全員。
- 第 6 回以降の調査においても、第 5 回で選定された住居を毎年調査員が訪問（前年の調査に協力を拒否した場合や、転居が判明していた場合も訪問が行われる）。
- 第 7 回以降の調査においては、別居や結婚により世帯をはずれても、調査対象地区に居住している世帯および個人は全て追跡された。
- 大幅な標本数の縮小が観察されたモスクワ・サンクトペテルブルクは、標本の補填が数回行われ、他の 2-3 都市でも一度行われた。
- 対象数: 11,290 人／3,975 世帯（1994 年）、21,753 人／8,149 世帯（2013 年）。
- 参加率: 84.3%*（1994 年）。
- 追跡率: 第 5 回から第 22 回の調査全てに参加した世帯は 29%、個人は 19%であった。その間、12.8%の死亡が観察された。

* 分母には空き家や連絡がとれない場合、拒否が含まれる。

● 調査方法および項目

14 歳以上の世帯員については、調査員が直接面談を通して質問紙票に記入する他記式の面接調査。

14 歳未満の子供は大人の世帯員を通じて回答が得られた。

（１）世帯および個人の経済状況

- 収入、労働、消費の詳細

（２）人口統計学的／社会学的要因

- 世帯構成、背景要因、教育等

（３）健康について

- 飲酒・喫煙状況、保健サービスの利用
- 食事調査
- 身長・体重・腹囲測定（第 5-14 回、および第 20 回調査のみ）

- 1994 年以降 2013 年までの各回における調査項目の詳細については、参考文献 1 の Table 3 参照

- **栄養調査**

- 1 日間の 24 時間思い出し法。
- 外部資金に応じて実施されているため、データ収集が不規則。
- 栄養素単位での摂取量は報告されているが、実際の食事データとしての利用は不可。

- **関連組織等**

- 管轄: 高等経済学院、ノースカロライナ大学カロライナポピュレーションセンター (Population Center at the University of North Carolina at Chapel Hill: CPC)
- 資金提供、研究協力機関: 高等経済学院、ノースカロライナ大学チャペルヒル校他

- **調査票 (第 5 回以降)**

National Research University Higher School of Economics, Questionnaires,
<https://www.hse.ru/en/rlms/questionnaires>

- **調査結果等**

高等経済学院の以下のウェブサイトより、RLMS-HSE を引用した出版物一覧を閲覧可能。
<https://www.hse.ru/en/rlms/publ>

- **データ**

1994 年以降のデータは、カロライナポピュレーションセンター (Carolina Population Center) (<https://www.cpc.unc.edu/>) のデータポータルサイトで公開されている。
個人、世帯、地区単位のデータを無料でダウンロードして利用可能。
機密データは、研究者に限り申請手続きを行えば利用可能。
<https://data.cpc.unc.edu/projects/3/view>

参考文献

1. Kozyreva P, Kosolapov M, Popkin BM. Data Resource Profile: The Russia Longitudinal Monitoring Survey—Higher School of Economics (RLMS-HSE) Phase II: Monitoring the Economic and Health Situation in Russia, 1994–2013. *International Journal of Epidemiology*. 2016. 10.1093/ije/dyv357
2. Carolina Population Center,
<https://www.cpc.unc.edu/projects/rlms-hse>
3. National Research University Higher School of Economics, Higher School of Economics,
<https://www.hse.ru/en/rlms/description>

関係機関ウェブサイト

- CPC: Population Center at the University of North Carolina at Chapel Hill
(ノースカロライナ大学カロライナポピュレーションセンター),
<https://www.cpc.unc.edu/>
- HSE: Higher School of Economics (高等経済学院),
<https://www.hse.ru/en/>

作成: 国立健康・栄養研究所 栄養疫学・食育研究部 国民健康・栄養調査研究室 URL アクセス日: 2021 年 6 月 7 日 / ファイル更新日: 2021 年 6 月 7 日
